



奈良の語り部講座

【参加費】各回500円(受講料・資料代)

【定員】各回13名／要申込・先着順

【会場】奈良市観光センター1F

NARANICLE奥 多目的スペース

※会場は公民館ではありません。

【日時】毎月1回開催 13:30～15:00

11/21(日)

郷愁と永遠の「大和路」～写真家・入江泰吉の作品と生涯～

講師:池川愼一さん

大和の風景と寺社、仏像などを撮影してめざましい業績をあげた入江泰吉。郷土の懐かしい風物を記録にとどめるとともに、独自の視点から「大和路」のイメージを創造し、定着させました。奈良を愛した不世出の写真家の作品と生涯を振り返ります。

12/19(日)

森鷗外の奈良時代～帝室博物館総長と正倉院～

講師:石田一雄さん

森鷗外は晩年、帝室博物館(当時東京・京都・奈良の国立博物館は一つの組織)の総長として、毎年正倉院の開封時期に奈良を訪れていました。雨が降ると扉が閉じられるので、その間は精力的に周辺の寺社を巡っていました。そのとき詠んだ和歌「奈良五十首」を含め、当時の様子をご紹介します。

1/16(日)

十津川の勤王志士・野崎主計(かずえ)～天誅組の義拳に殉じた郷土～

講師:徳南毅一さん

十津川郷は勤王の風土の強い土地です。幕末の天誅組(てんちゅうぐみ)の呼びかけに郷土を挙げて応じ、義拳(ぎきょ)に殉じた義人(ぎじん)を語ります。

2/20(日)

棚田嘉十郎は、なぜ宮跡保存の功労者になれたのか

～史料から読み解く明治・大正の平城宮跡保存運動～

講師:池川愼一さん

社会的地位や財産もない植木職人の棚田嘉十郎が、なぜ平城宮跡保存のキーマンになれたのでしょうか。それは時代背景と密接に関わっています。彼の行動を詳しくたどり、時代的な視点から解き明かします。また、自決へ至る謎にも迫ります。

3/20(日)

空海・渡唐の旅～赤岸鎮(せきがんちん)への漂着から長安まで、中国に残る足跡をたどる～

講師:石田一雄さん

延暦23年(804)難波津を出航した空海の遣唐使船は、途中で嵐にあい大きく航路を外れて、福州長溪県赤岸鎮に漂着。一行は海賊の嫌疑をかけられ、疑いが晴れるまで約50日間待機させられました。そこから長安に入るまで、現在の中国に残る空海の足跡を追います。

【主催】公益社団法人 奈良市観光協会

【申込先】E-mail:order@narashikanko.or.jp

【問合せ】奈良市観光協会 ☎0742-30-0230(平日9:00～17:00)

※会場には駐車場はございません。お越しの際は公共交通機関、または近隣の有料駐車場をご利用ください。

(受講当日のお願い)

・マスクを着用してください。

・手指消毒を行ってください。

・体調の悪い方は、ご遠慮ください。